



【株式会社モロオ 会社概要】

- ・所在地—札幌市中央区北3条西15丁目
- ・創業—1917年、設立—1949年
- ・資本金—8億円
- ・売上高—1,224億円(2015年度)
- ・社員数—約577名(2016年3月末現在)
- ・事業所数—本社他、全道31事業所
- ・グループ会社—(株)メディソフト、(株)クリオネ、(株)サンクル、オーロラケアネット(株)

【事業内容】

- ・医薬品、検査試薬、健康食品、OA機器の卸売販売など

今回の会員企業トップインタビューは、医薬品、検査試薬などの卸売販売会社・株式会社モロオの師尾社長に伺いました。同社は、今年創業100周年を迎え、道内全域に、医薬品を安全・安定的かつ迅速に届けるための事業所と物流情報システムを有し、ヘルス&ライフの総合企業としてスケールメリットを活かして、高齢化社会において地域に根ざした医療活動をサポートし、人々の健康と豊かな暮らしづくりに貢献しています。

Q. 貴社の沿革をお聞かせください。

A. 大正6年4月に旭川市において、祖父の護道が師尾薬局として創業し、戦後の混乱期を経て昭和24年に株式会社に改組しました。昭和52年に60周年を機に株式会社モロオに社名変更し、現在に至っています。この間、医薬品の卸売販売から、OA機器・ソフト開発、福祉用具の販売や介護事業にも業容拡大を図ってきました。

Q. この間、特に印象的な事象をお聞かせください。

A. 創業後、戦時中は物資や薬も不足し価格も跳ね上がっていた時代でしたが、「モロオに頼んだら薬を通常の値段で卸してくれたので大変助かった。」という話を、陸軍病院を辞めて開業された先生方から伺ったことがあり、信用と誠実さを大事にしてきた企業姿勢に感慨深いものがありました。また、昭和42年(創業50周年)の年に、札幌本部を新築し、業界でも3番目の早さでコンピューターを導入したことも印象深く残っています。

Q. 師尾社長ご入社の経緯をお聞かせください。

A. 私は、東京薬科大学に進学し、卒業後、第一製薬に入社することを自分で決めていて、同社に骨を埋めるつもりでおりましたから、(株)モロオに入ることは一切考えていませんでした。ところが30歳頃、当時社長をやっていた叔父から、将来的に事業を拡大する予定なので、私の兄(現会長の純一氏)と一緒に仕事を手伝って欲しいとの話がありました。当初は固辞していたのですが、私の父が46歳で急逝して、叔父からの「父の意思を受け継いでみないか」という言葉で当社に入社する決意をしました。

Q. 経営理念・経営ビジョンをお聞かせください。

A. お薬をお客様に安全に安定的にお届けするという基本は変わりませんが、平成元(1989)年に経営理念「ヘルス&ライフの総合企業モロオを創造する」を制定しました。私たちはこの理念を行動の基本とし、今後も北海道民の健康と生活に貢献できる企業づくりを進めて参ります。

Q. 貴社事業における重点施策、経営課題などお聞かせください。

A. 当社は、北海道に特化し、グローバル「発想はグローバル、行動はローカル」を合い言葉に『地域密着』という企業戦略をとってきました。お客様に認められる付加価値を提供し続けることにより、引き続き医薬品業界の中で確固たるポジションの確立を目指していきたいと思っています。

Q. シンボルマークの由来をお聞かせください。

A. 人の生活において大きな要素である、健康・生活・情報・文化・科学。この5つの永遠のテーマを、コーポレートカラーのブルーを基調に、モロオのイニシャルである「M」をモチーフにデザインしました。



シンボルマーク(5つのテーマを「M」をモチーフにシンボライズ)

Q. 社長が取り組まれた中で印象に残る仕事、事柄をお聞かせください。

A. 私がモロオに入社したのは、昭和 59 年(1984 年)です。入社してからは、営業を中心に仕事をしていましたが、財務、人事、教育の他、経営・物流の各システム導入も担当しました。常務時代の平成2年(1990年)に、長期経営計画「Cosmic-2000」というプロジェクトを社内でスタートさせました。コズミックというのは宇宙に限りなく伸びていくということ、2000 というのは 2000 年に向かっていくということで、全社員に対しビジョンや経営理念の浸透を図ると共に、「企業は人なり」と言われるように、人材育成の体系づくりに着手しました。以来、人材育成にはかなりの投資をしてきました。医薬品卸業界でも指折りの体制ではないか、とっております。

Q. 貴社の社風、社員気質などお聞かせ下さい。

A. 元来、人を大切にするという考え方が受け継がれてきています。私は、各営業所に出向くことが多く、社員とワイワイガヤガヤとディスカッションしたり懇親会を通して交流を深めています。社員一人ひとりがそれぞれの意見や考えをざっくばらんに言える社風でありたいと思っております。

Q. 従業員の人材教育に「C-2塾」とありますが内容をお聞かせください。

A. それは、「Cosmic-2000」でスタートしたのですが、他ではない研修だと思えます。20~30 代の中堅社員を対象に、個々の社員に自立した考え方を持ってもらうため、仕事とは直接関係のないテーマの本を読んで、お互い発表し合うなど人間形成に資する研修です。1年間に亘って毎月札幌で開催し、2 月にまとめとして、学んだことをどう生かすか発表するという内容です。

他社の方々からも色々問い合わせもありましたし、就職活動をされている学生さんにも大変関心を持って頂いております。

Q. 貴社の将来展望、社長ご自身の夢などお聞かせください。

A. 医療法改正などにより、業界はますます厳しくなると想定しています。医療費抑制策の一環として、薬価が毎年のように下がる方向にあって、売上が伸びることは難しい状況です。しかし、そのような状況の中でも、抗癌剤をはじめ画期的な医薬品が今後製薬メーカー各社から開発される予定で、道内でもその需要が益々高まると思えますし、後発（ジェネリック）医薬品などの品揃えもしっかりと対応していきたいと思っております。

また、罹患を未然に防ぐ未病システム学会という組織でも事務局として参画していますし、栄養士の資格を有する社員が栄養指導のセミナーなど積極的に参加しています。

医療や介護、そして生活に関わる分野にまで視野を広げ、北海道に貢献する企業でありたいと思っております。

Q. マーケットを北海道に特化していますが、今後の方針をお聞かせください。

A. 何年前かに、製薬会社の方から道外進出の話はありましたが、東京以北のそれぞれの地域に優秀な同業他社がありますので、敢えて競合する事は行わないと決断しましたから、道内に特化して貢献していく考えです。

Q. 今、政府の成長戦略として、働き方改革や女性活躍推進が話題として挙がっていますが、貴社の取り組みをお聞かせ下さい。

A. 営業職にも女性が多く在籍し、本当に活躍してくれています。ただ、管理職とか幹部になっているのは数名ですので、さらに増えて活躍してほしいと期待していますし、育成したいと思っております。

Q. 今年4月に100周年を迎えますが、事業や社会貢献などは予定されていますか。

A. 実は90周年の時に、発祥の地・旭川で、旭山動物園に電気自動車を寄贈しました。現在は、ある大学への寄付講座に協力させて頂いたりしております。

100周年を迎えるにあたり、お得意先にはこれまでの恩返しとして、経営に貢献出来るような営業活動を全社員で取り組んでいきたいと思っております。

又、当社は道内各地に事業所がありますので、各地区でどのような社会貢献活動が出来るかを社内で検討しているところです。

本日は、大変お忙しい中ありがとうございました。



シルバーシャトルを旭山動物園に寄贈